

パートナー

～令和7年度活動報告～

No.47

はだの市民が創る 男女共同参画推進会議

4月19日(土)定期総会・第1回担当者会議

委員の改選で令和7年度から委員になられた方は初めての総会でした。会の活動内容を紹介しつつ、令和6年度の決算及び事業報告、令和7年度の予算及び活動計画について審議が行われ、議案どおり可決されました。その後、啓発活動と講演それぞれ担当に分かれ、1回目の担当者会議を行いました。



6月28日(土)はだの男女共同参画フォーラム

落語家であり尼僧でもある露の団姫氏を招き、「女らしくなく 男らしくなく 自分らしく」を開催し、146名の参加がありました。性別にとらわれず『自分らしく』生きる秘訣と、男女共同参画の未来を“笑い”を交えて分かりやすくお話していただきました。



11月12～25日 女性に対する暴力をなくす運動

市役所教育庁舎、図書館に啓発ブースを設置しました。また、本庁舎フェンスへ横断幕を掲出、秦野駅ではデジタルサイネージで啓発を行いました。本庁舎では、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、パープルライトアップを行いました。女性に対するあらゆる暴力の根絶を広く呼びかけるとともに、被害者に対して「ひとりで悩まず、まずは相談をしてください。」というメッセージが込められています。



教育庁舎



図書館



横断幕



パープル
ライトアップ



6月23～29日 男女共同参画週間



市役所教育庁舎、本町公民館、図書館の3か所において啓発コーナーを設置し、チラシや啓発グッズの配布も行いました。28日(土)には、イオン秦野店にて街頭啓発活動を行いました。



教育庁舎



本町公民館



図書館



街頭啓発活動



11月3日(祝・月) 市民の日

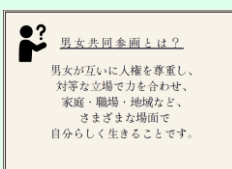
第46回市民の日に参加し、「男女共同参画社会」への関心を高め、意識の啓発を図ることを目的に、PR及び男女共同参画関連のアンケートを実施しました。アンケートには572人にご協力いただき、「ワーク・ライフ・バランス」の言葉も意味も知っている人が昨年より大幅に増え、過半数となりました。



11月22日(土)人権・男女共同参画を考える会



旅行作家・グルメ作家の石田ゆうすけ氏をお招きし、「世界9万5000km 自転車ひとり旅から考える人権」をテーマに講演会を開催しました。自転車で87か国を走り世界一周を達成された経験から、多様性理解や夢を持つことの大切さ、困難の乗り越え方について、きれいな写真と共に「疑似旅」をしながら考えました。人生の本質や人との関わりについて体感できる貴重な講演でした。



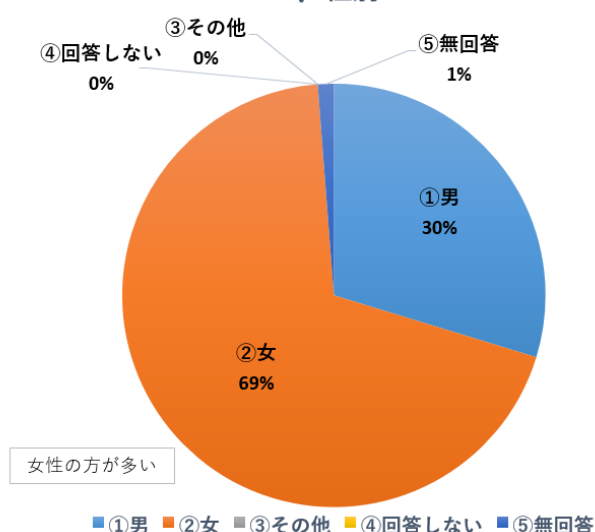
会の活動を紹介するスライドを作成しました！
委員の所属する各団体内でご活用いただくことも可能です。
必要な方は事務局までお声がけください。



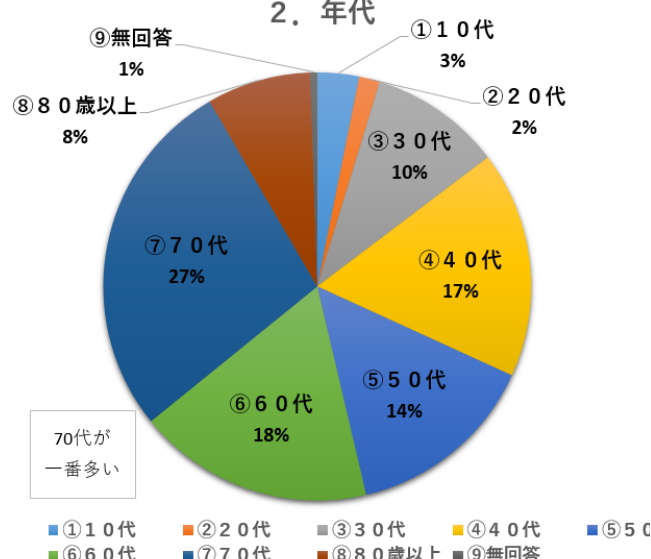
引き続き男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでまいります

令和7年度「市民の日」行政コーナー参加によるアンケート調査結果 (572人回答)

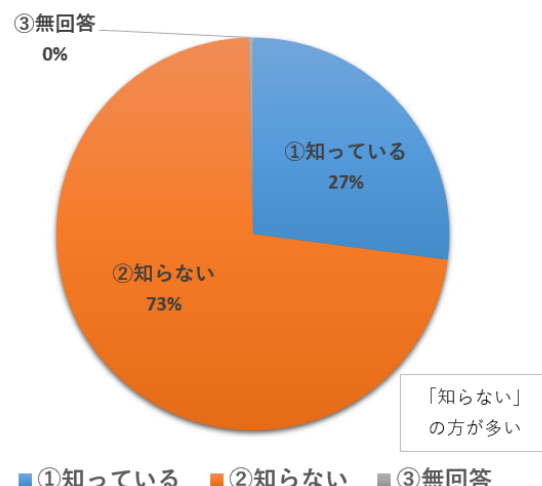
1. 性別



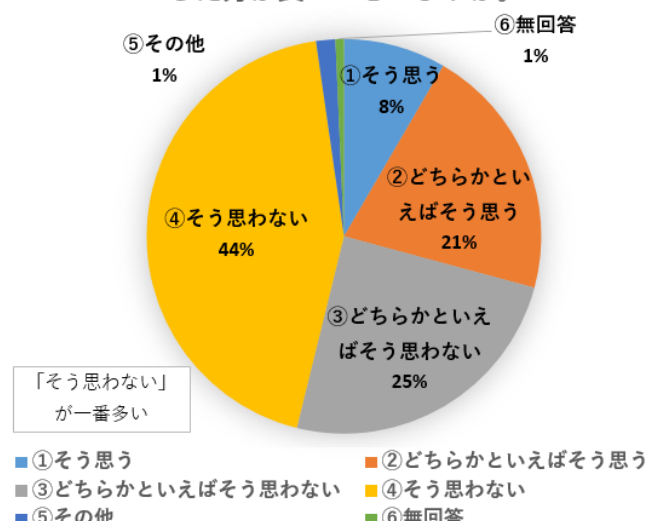
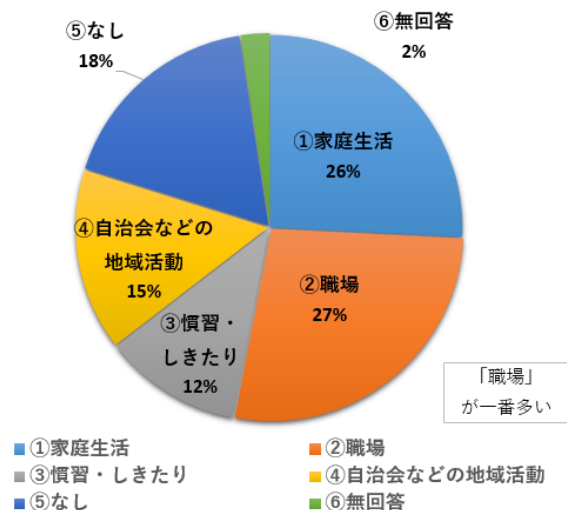
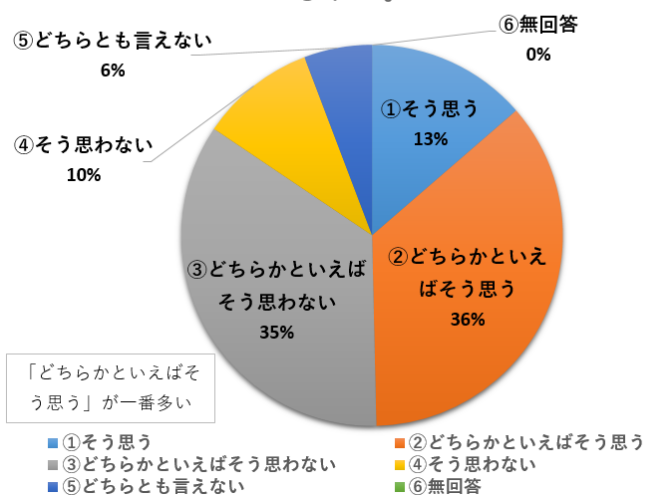
2. 年代



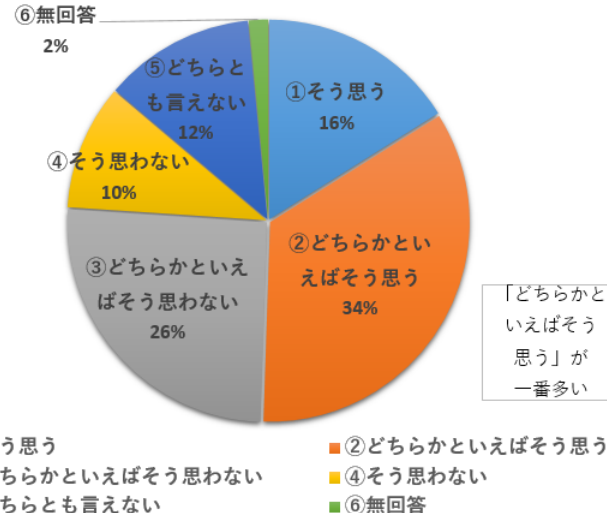
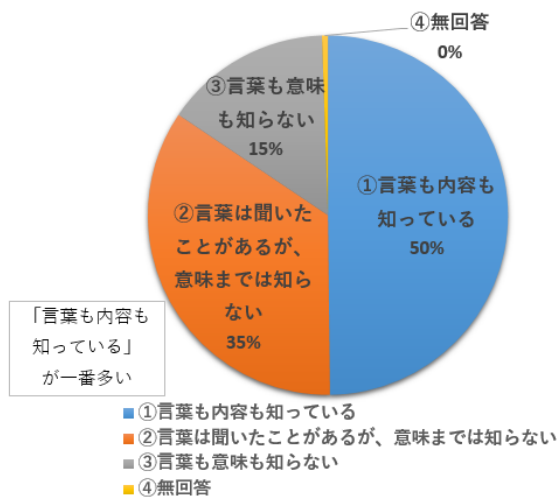
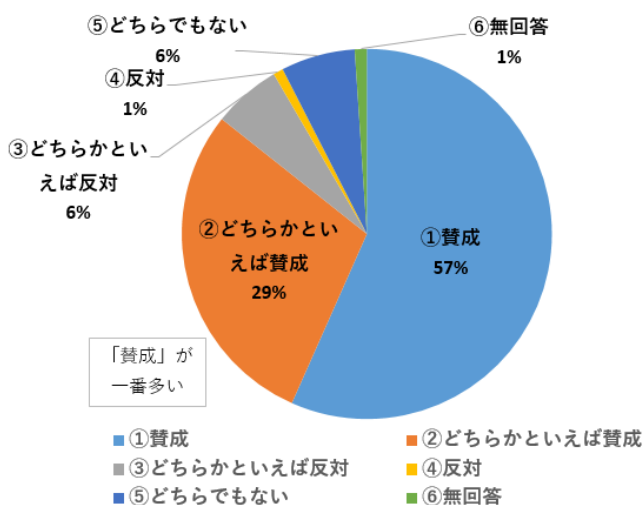
3. 「はだの市民が創る男女共同参画推進会議」を知っていますか。



4. 社会全体を通して男女平等になっていると思いますか。 5. 次の分野において、男女平等になっていると感じるものはどれですか。(複数回答可) 6. 男性は仕事を優先し、女性は家事・育児を優先した方が良いと思いますか。



7. 妊娠・出産後も女性が仕事を辞めずに働き続けることについて、どう思いますか。 8. 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」という言葉と意味を知っていますか？ 9. 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」は実現できていると思いますか。



「妊娠・出産後も女性が仕事を辞めずに働き続けることについて」は、賛成意見が86%となり、妊娠・出産後も仕事を続けたいという女性を、地域社会全体が受け入れていることが分かります。働き方の多様性や職場環境づくりが、今後ますます重要となってきます。



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の言葉と意味を知っている人は、昨年より22%増え50%と過半数になりました。一方で、ワーク・ライフ・バランスは実現できていると思うかについては、肯定派が過半数となりましたが、否定派や「どちらともいえない」と回答した人も約半数おり、仕事と家庭のバランスに課題を感じている人が少なくないことがわかります。誰もが自分らしく生きられる社会づくりのため、多様な価値観やライフスタイルを尊重する社会の実現を目指していきます。